

平成27年 関西元気文化圏賞 贈賞理由



関西元気文化圏推進協議会

大賞

姫路城（姫路市）

世界遺産でもある姫路城は、2015年3月に総工事期間5年半、腕を振るった職人は延べ15,000人以上に及んだ「平成の大修理」を完了。白漆喰で塗り直された大天守は、約400年前の築城当時の姿を再現し、日本の名城にふさわしい姿を現した。蘇った「白鷺城」には国内外から多くの観光客が訪れ、2015年度の入城者数は、12月に日本城郭の過去最高記録222万人を突破し、日本の伝統文化や歴史について、再発見・再認識する機会を与え、日本を代表する歴史遺産として、また日本文化の発信という点からも、関西の魅力を国内外へ向けアピールするのに大いに貢献した。



特別賞

高野山真言宗 総本山金剛峯寺

弘法大師空海が真言密教の根本道場として高野山を開かれて1200年を迎えた2015年4月2日より50日間に亘る高野山開創1200年記念大法会は、「生かせいのち大師のみおしえ いまここに」をテーマに、歴史上初となる金堂秘仏「薬師如来」の御開帳など絢爛壮麗な法会絵巻と様々なイベントが繰り広げられ、国内外の参拝者で溢れかえった。その1200年の歴史は広く注目され、世界的な旅行雑誌でも「2015年に訪れるべき世界20選」に日本で唯一選ばれるなど、高野山の持つ不変の魅力を国や宗教を超えて、内外に発信しただけでなく、関西の歴史文化の奥深さをあらためて再認識させた。



琳派400年記念祭委員会

本阿弥光悦が徳川家康から鷹峯の地を拝領して400年の節目となる2015年を「琳派400年記念」と位置付け、その魅力を発信する「琳派400年記念祭」をオール京都で推進した。イメージキャラクターやロゴを活用した積極的な広報活動のほか、ミラノ国際博覧会への出展や国際シンポジウムの開催などの活動だけでなく、現代アートとのコラボなど琳派の新たな魅力の創出にも挑戦した。これにより国内外の幅広い人々から注目され、同記念祭の盛り上げに大きく貢献するとともに関西文化の奥深さを改めて示した。



ニューパワー賞

又吉 直樹（芸人）

大阪府寝屋川市出身。お笑い芸人として活躍する傍ら執筆した「火花」で2015年第153回芥川賞を受賞。その著書は、発行部数245万に達し、芥川賞受賞作で初めて年間ベストセラー総合1位となった。小説の中で生き生きとした大阪弁が使われており、大阪育ちというバックボーンと、また、夢を抱いて東京へ旅立つ多くの芸人（若者）の姿を自らの経験に重ね合わせた小説は、多くの読者を魅了した。各メディアにおいて太宰治をはじめとする作家や著者を紹介し、純文学ファン層の拡大、出版界の活性化にも貢献した。今後もお笑い活動とともに幅広い活躍が期待される。



チームラボ

徳島県出身の猪子寿之氏が代表を務めるクリエイティブ集団。2015年開催された「ミラノ万博」日本館で展示した作品「HARMONY」と「DIVERSITY」は、来館者が参加でき体感したことのないアート空間として人気を博し、日本館が「展示デザイン部門」で金賞を受賞する原動力となったほか、アート分野でニューヨーク、ロンドン、パリ、ラスベガスなど世界を舞台に活躍。国内でも日本科学未来館で開催をした「チームラボ踊る!アート展と、学ぶ!未来の遊園地」で子どもから大人まで楽しめるアート作品を展示し、新たなアートの魅力を開拓し、今後一層の活躍が期待できる。



すなば珈琲

鳥取県の平井知事が「鳥取にはスタバはないけど、日本一のスタバがある」という得意のダジャレで自虐ネタを展開、これを受けて鳥取駅前が開業した「すなば珈琲」。2015年には、スターバックスコーヒーが鳥取市にオープンしたことをきっかけに「大ピンチキャンペーン」を展開し、市内の喫茶店主らと「鳥取珈琲文化振興会」を結成、県も観光PRを行うなど、47都道府県で唯一店舗がなかったことを逆手に取り、ユニークな話題作りを行い注目された。名前は冗談っぽいけど、やっていることは驚くほど真面目なオーナーの今後個性豊かな活動が期待される。



吉田 玉男（文楽人形遣い）

大阪府八尾市出身。1968年、中学3年生で初代吉田玉男に弟子入り。中学校卒業後に吉田玉女として初舞台を踏み、以来、立役（男役）中心に活躍、文楽を支えてきた。2015年4月に師匠の名跡である吉田玉男を襲名し、国立文楽劇場および東京の国立劇場で襲名披露を行った。初代の足遣い、左遣いとして修行を積み重ね、初代の当り役の多くを引き継いでおり、関西発祥のユネスコ無形文化遺産である文楽を支える大黒柱の一人として、新しい玉男の魅力ある舞台が期待される。

